

# 表彰式（夏のH T T取組事例の募集）

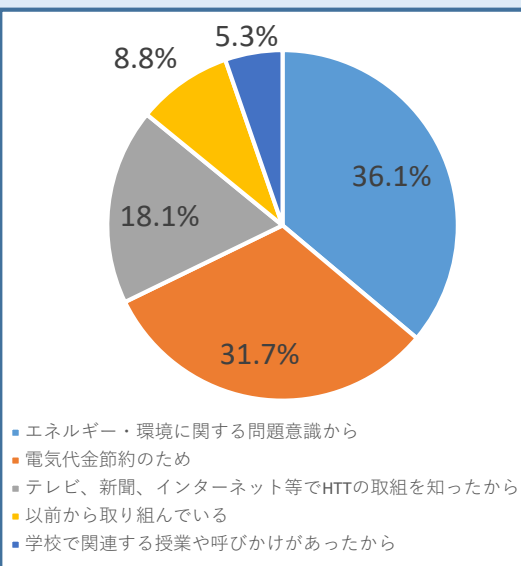
## 夏のHTT取組事例募集の結果概要

- 夏のHTT推進期間における取組事例を都民・事業者から募集
- 家庭部門は**1,571件**、事業者部門は**57社(5,816事業所)**のご応募
- 応募内容等を精査し、優良事例は**広く周知・展開**。この冬の**節電行動**へとつなげていく

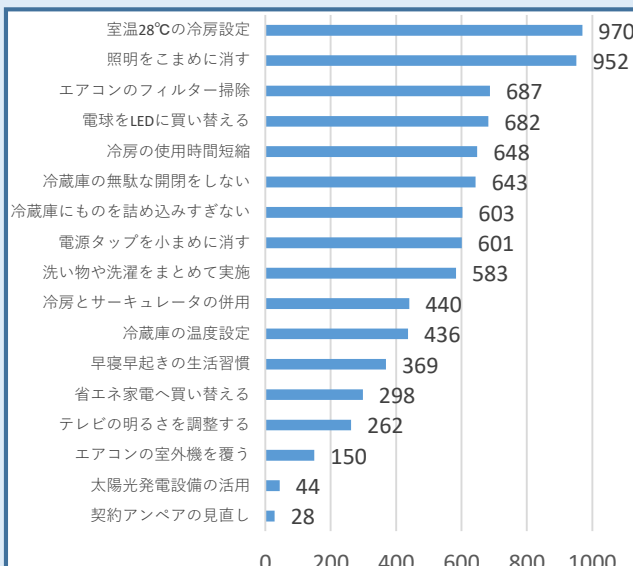
## 応募結果の概要【家庭部門】

- 節電に取り組んだきっかけとして「**エネルギー・環境に関する問題意識**から」が**約4割**を占める
- 最も多く取り組まれたのは**エアコンに関する取組**であり、**3割以上**を占める
- 取組の効果として、**消費電力量が減少した**と回答した家庭が**6割以上**

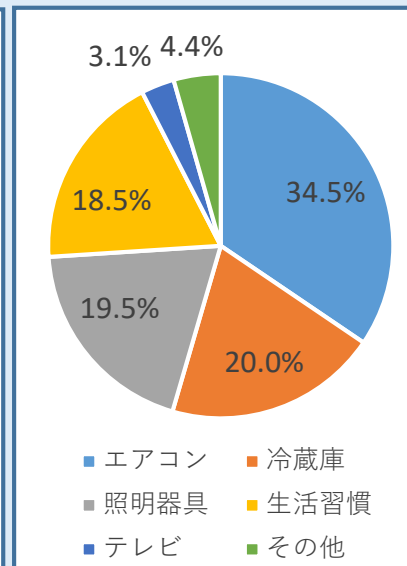
節電に取り組んだきっかけ



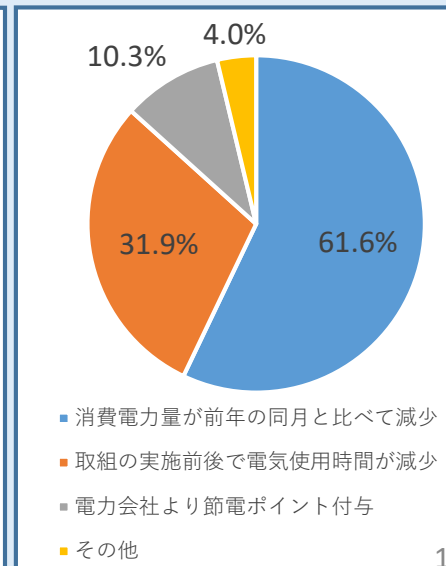
取組内容



取組分野の割合



取組の効果



## 応募結果の概要【事業者部門】

### ● サービス業

- ・ 集配用EV車両に係るエネルギーマネジメント実証実験
- ・ 自社スタジアムでの**節電**実施



### ● 金融・保険業

- ・ 全社をあげた節電対策の実施
- ・ 電力需給ひっ迫時の**節電**への協力

### ● 総合商社

- ・ **使用電力量の見える化**、スマートメーター等の活用等



### ● 情報通信業

- ・ 自身のエコな行動による**CO<sub>2</sub>削減量を可視化**するシステムを導入
- ・ エコ委員会を設置し、毎月開催

### ● 小売業

- ・ 店舗毎の節電実施
- ・ 加盟店舗への**省エネ動画**・**省エネカウンセリングツール**の配信



### ● 製造業

- ・ 工場への**太陽光発電設備導入**
- ・ 工場稼働日の削減
- ・ 工場使用電力の**ピークカット**



### ● 不動産業

- ・ 賃貸物件・テナント等での**節電**、空調・照明の**デマンドレスポンス**
- ・ **コジェネレーションシステム**の稼働等による系統からの**購入電力削減**



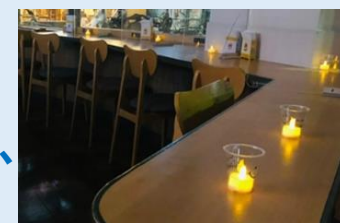
### ● 運輸業

- ・ 運営基地・各駅・商業施設での**節電**
- ・ HTT広報スペースの提供
- ・ 乗務員の制服にクールビズ（開襟シャツ）を導入



### ● 飲食業

- ・ 楽しみながら省エネや節電を考える「**キャンドルナイト**」開催
- ・ 本社でエネルギー**削減目標の設定**、**節電アイデアの募集**・実施



【事業者部門】受賞企業一覧（10社）

愛知産業(株)

大陽ステンレススプリング(株)

(株)オーネックス

東芝インフラシステムズ(株)

(株)サンテック

戸田建設(株)

渋谷スクランブルスクエア(株)

日本システム開発(株)

(株)セブン-イレブン・ジャパン

森ビル(株)グループ

取組名 複数拠点ビルを蛍光灯から全館LED化し、照明の電力消費量を半減

取組内容

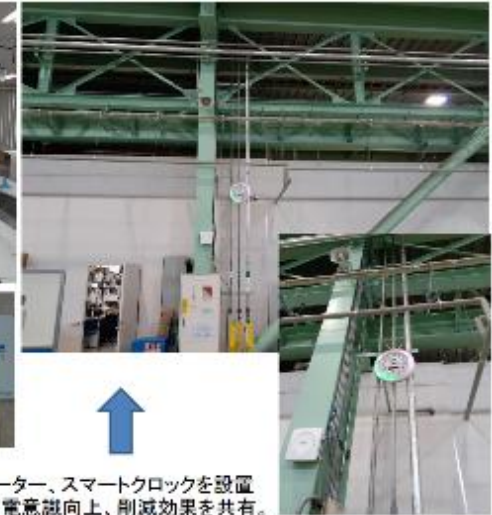
- ① 社員150名中、大部分を占める本社ビルを含む3拠点(120名程度)を全館LED化。
- ② 休日や工場内機械の稼働停止スケジュールを組み、段階的にLED化を実施。
- ③ スマートメーターエリア、スマートクロックを活用したHTT推進活動。



お客様向けに  
デモンストレーション  
ルームにLEDスポット  
ライトを追加、輝度を  
上げ、商品、機械説明  
環境を向上。



オフィス内、作業スペース内にスマートメーター、スマートクロックを設置し、電気使用量、ピーク時の見える化、節電意識向上、削減効果を共有。



評価ポイント

- ・照明をLED化することによる節電及びスマートメーター・スマートロックによる注意喚起と意識付けが  
できている。
- ・エネルギー消費量の見える化+働き方改革推進は他社展開しやすい。

冬のHTT取組宣言

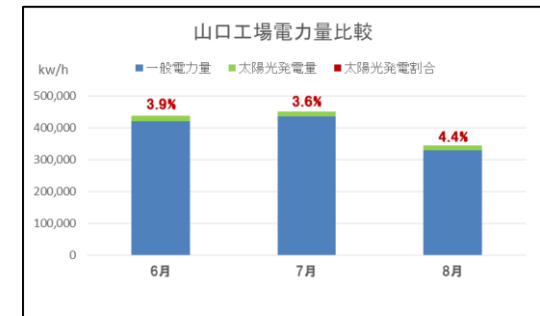
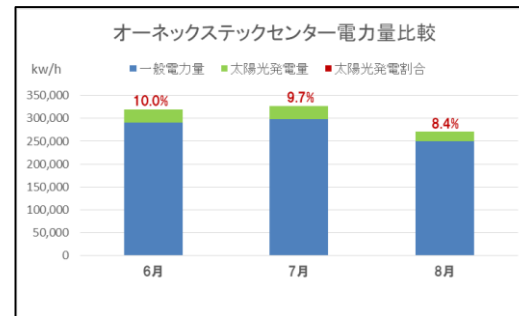
- ・工場屋上を活用した自家発電装置、蓄電池設置。BCP実践促進助成金活用。

## 取組名

## 自家消費型太陽光発電システムの導入

## 取組内容

- ① 工場の屋根を利用するため、比較的新しい2工場から設置を計画し、他の2工場は、屋根の強度などを適切に調査をしたのち、設置を検討。
- ② 2021年11月から子会社である株式会社オーネックステックセンター（三重県亀山市）に自家消費型太陽光発電システムを設置。翌2022年3月から株式会社オーネックス山口工場（山口県山陽小野田市）に同型のシステムを設置。
- ③ 毎月の使用電力を記録し、節電及び電力費の効果を確認。



## 評価ポイント

- ・太陽光発電システム導入による節電。設置検証後に次の工場へ展開と堅実的な取り組み。
- ・熱処理設備の充填率を高める運用面の改善にも取り組んでいる。
- ・節電効果を確認し、社員の環境意識向上につなげている。

## 冬のHTT取組宣言

- ・CO2削減も念頭にガス炉から電気炉への転換と同時に熱処理プロセスの省略化による節電を推進

取組名

工場全体の節電対策強化と電力ピークカットの実施

取組内容

- ① 製造現場での節電対策強化  
(空調設備について夏季休暇時は省エネモード切替など)
- ② 事務所内での節電対策強化  
(エアコンの設定温度28度、ブラインド使用を徹底し、負荷を軽減など)
- ③ 国の注意/警報報発令時の対応  
(環境委員会より節電の更なる呼びかけを行うなど)



7 70%+Renewable Electricity

ゴール7: 全ての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。

◆サンテックの取り組み

- ・太陽光発電システムを導入
- ・社内の蛍光灯をLED照明に変更
- ・照明の自動消灯



屋上のソーラーパネル



LED照明導入

評価ポイント

- ・HTTに即した取り組み。「へらす」は逼迫時メインで無理のない取り組み。
- ・太陽光発電で作り、蓄電池でためる。大型モニター使用によるデマンド管理も効果的。
- ・幹部会議他各種会議で重層的な周知徹底。

冬のHTT取組宣言

- ・ウォームビズ推進
- ・エアコンスイッチのON/OFF権限を環境委員会に委ねる
- ・休憩時間の消灯 (継続)

取組名

安全・安心・快適を目指した節電対策

取組内容

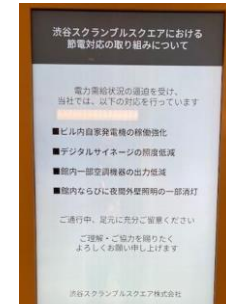
- 1 受電電力量の削減 コージェネレーション（発電機）並列運転
- 2 館内共用部節電対応
  - ①外壁照明 消灯
  - ②アーバンコア照明減灯
  - ③デジタルサイネージ輝度設定変更
- 3 QWS 節電対応 空調温度変更
- 4 オフィス共用部節電対応
  - ①空調温度変更
  - ②照明照明減灯
  - ③上記対応以外に2022年7月1日以降常時、通常時の各階空調温度・照明点灯時間見直し実施



デジタルサイネージ輝度設定変更・HTT



デジタルサイネージを活用した発信



評価ポイント

- ・需給逼迫時の節電＋自家発電の活用、夜間帯での蓄熱。コージェネを最大限に活用。
- ・HTTそれぞれの分野に取組み、着実に実績を出している。
- ・顧客への周知などで波及効果に期待。

冬のHTT取組宣言

- ・館内各所照明減灯及び館内各所設定空調温度変更、必要に応じコージェネレーション並列運転検討中。



取組名

省エネインナーキャンペーンを含めた「省エネ体制」づくり

取組内容

- ①地区の営業トップによるメッセージを発信。各店舗に省エネリーダーの設置を推奨。
- ②省エネコンサルティング・数値検証のため、立地・売上等の類似店と自店の電気使用量を比較し、数値検証できるツール・アプリを導入。7・8月の「電気使用量」について基準月に対する増減率を店舗ごとに評価し、各地区の上位店を表彰（予定）。
- ③本部・地区事務所も「ノー残業デー」や空調の設定温度確認、日々の節電の実施。



評価ポイント

- ・フランチャイズ制のため指導・指示の難しさがある中、カウンセラーによる検証、各店舗の省エネリーダー設置、表彰、取組事例共有、各店舗での電気量見える化等工夫が多い。
- ・省エネコンサルティングツールは先進的。

冬のHTT取組宣言

- ・「冬の省エネ6か条」の取組に加え、空調設定温度の見直しによる節電
- ・今年の冬はWarm Bizを取り入れる等、快適な働く環境づくりを目指す

取組名

本社・工場全体の「節電対策の継続と一人一人ができる節電の習慣付け」

取組内容

- ① 支障のない程度に工場稼働日を削減
- ② オフィスでの節電対策を今一度リマインドし、一人一人ができる事を自主的に考え実行
- ③ 工場での設定の見直しと徹底
- ④ 設備の省エネ化を進める
- ⑤ 水素自動車（FCV）を社用車として採用



評価ポイント

- ・空調・照明・OA機器中心であるが、都外だが工場生産ライン稼働自粛も貢献。
- ・FCV導入による蓄電体制強化も評価。・独自ポスターも斬新。
- ・日々の活動を通じ省エネが習慣付いている状況がうかがえる。

冬のHTT取組宣言

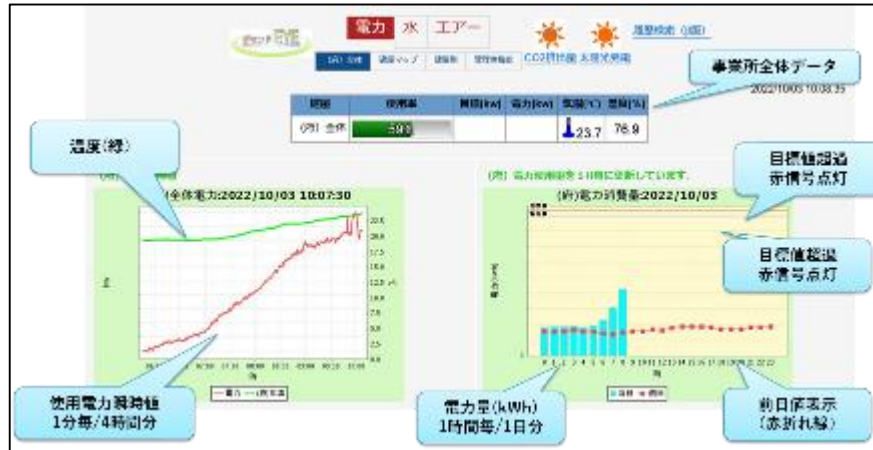
- ・夏に引き続き社内の節電対策を継続、工場稼働数の見直し
- ・電力逼迫時間帯17:00~20:00 の意識付けと家庭での電力使用の工夫
- ・ポスターなどで冬の更なる厳しい電力需給を広くアピール

取組名

社内ポータル（デマンドEYE）を使った電力量の削減

取組内容

- ① 構内全部門、関連会社に対して日常の節電をメールにて依頼
- ② デマンドEYE 使用電力をリアルタイムに社内ポータルに表示
- ③ デマンドEYE 建家別に使用電力の目標値を設けて使い過ぎを防止
- ④ 電力需要がひっ迫し目標値を超過しそうな場合、構内放送で負荷抑制を実施



評価ポイント

- ・家庭でも取り組み可能な節電項目を全社をあげて推進。
- ・社内ポータルに電力使用量掲載（リアルタイム）、建物別の目標値見える化、使用電力が大きいときに特別対策実施など運用面の工夫もあり。

冬のHTT取組宣言

- ・働き方に合わせたエアコン自動OFF制御により電力量削減を実施します

## 取組名

## 温冷感空調システムを活用した満足感を保った省エネ活動

## 取組内容

- ①株式会社村田製作所、アズビル株式会社と協同開発した「温冷感空調システム※」を活用し、快適性を損なわない省エネ活動を実施。
- ②2021年度に夏季冷房28℃設定、冬季暖房20℃設定で当システムにより、一定の満足感が保たれ、生産性への影響もさほどないことを確認。
- ③今夏、空調の設定温度を26℃～28℃の間で設定し、各自がカード端末を使用して温冷感を申告することで、快適性を保ちながら省エネを実施。



## ※「温冷感空調システム」とは

オフィス在館者へ「カード端末」を配布し、個人が暑さ寒さを感じた際に申告カードのボタンを押すことで、天井に設置したセンサーが反応し、周辺の空調温度設定が1～3℃変化した後、設定温度の下げ過ぎ防止の為、環境に合わせて判断し設定温度を自動で変更できるシステム

## 評価ポイント

- ・温冷感空調システムのカード端末により、従業員の感覚を反映した節電が可能な独自開発の温冷感システムには期待。計画時の目標を上回る成果を出している。
- ・各部署から集めたワーキンググループを立ち上げ全社で取り組んでいる。

## 冬のHTT取組宣言

- ・冬季も温冷感空調システムを活用し、設定温度20℃～22℃の間に設定快適性を保った省エネ活動を継続して実施します。

取組名

NSKエコプロジェクト委員会を運営し、社内のエコ活動を推進

取組内容

NSKエコプロジェクト委員会(以下エコ委員会とする)が中心となり、以下の取り組みを推進

- ①各拠点におけるエネルギー使用状況の分析と改善策の考案
- ②省エネに関する全社向けの月次目標を設定
- ③クールビズ/ウォームビズの実施
- ④省エネ製品の推奨
- ⑤昼休み時間帯の照明消灯
- ⑥未使用箇所における消灯や空調停止の徹底
- ⑦窓開けによる室温調整の実施（主に春や秋）
- ⑧扇風機の活用による空気循環
- ⑨ブラインドを活用した冷房負荷の低減や熱の流出抑制
- ⑩エコチャレンジを毎月全社員が実施

**エコチャレンジ概要**

私の1日あたりのCO<sub>2</sub>削減目標は「424.3g」です。  
今月あたり424.3×30日＝「12,733g」となります。 ②

**CO<sub>2</sub>削減実績**

私は今月のチャレンジで「0kg」のCO<sub>2</sub>を削減しました。 ④

1クリックすると詳細な削減目標が表示されます。

▼入力項目

家庭編 ① ③

項目	CO <sub>2</sub> (g)	選択	評価
Act1: 温度調節で減らそう			
夏の冷房時の設定温度を26℃から28℃に2℃高くする	100	<input type="checkbox"/> 選択	
冬の暖房時の設定温度を20℃から20℃に2℃低くする	100	<input type="checkbox"/> 選択	
Act2: 本道の使い方方で減らそう			
風呂のお湯を利用して身体や顔も洗い、シャワーを使わない	1371	<input type="checkbox"/> 選択	
シャワーの使用時間を1日1分短くする	174	<input type="checkbox"/> 選択	

①今月取り組む項目を選択  
②選択内容により目標とするCO<sub>2</sub>削減量が表示される  
③翌月に自己採点をする  
④採点結果からCO<sub>2</sub>削減実績が表示される

評価ポイント

- ・エコ委員会や社員のエコチャレンジという運用上の工夫がある。
- ・社員各自の取組宣言による意識向上。

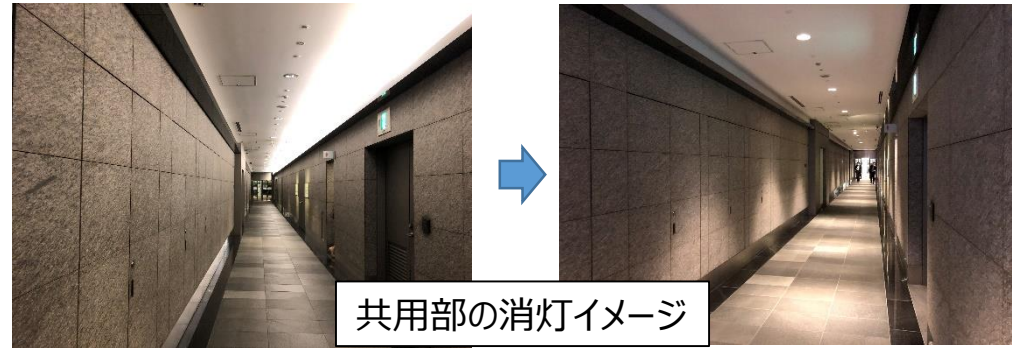
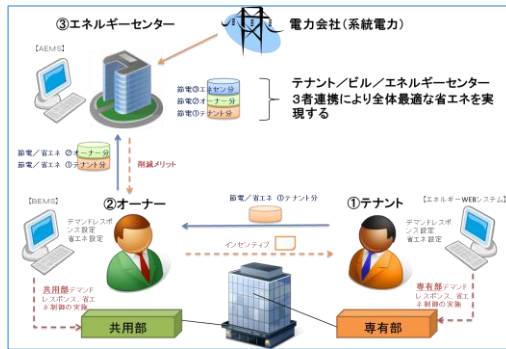
冬のHTT取組宣言

- ・エコチャレンジ（アプリ版）を当社以外の方に無償で提供できるように開発・準備する

取組名 エネルギー供給者と需要家（ビル）との連携による節電を意識した HTT 推進

取組内容

- ①エネルギー会社による H(へらす)：バックオフィスの消灯減灯実施など
- ②エネルギー会社による T(つくる)：発電余力による電力をVPPを活用して系統側へ供給
- ③エネルギー会社による T(ためる)：蓄熱槽活用によるピークシフトピークカットへの貢献
- ④施設運営による H(へらす)：共用部/バックオフィスの消灯減灯等による節電意識の向上
- ⑤協業による H(へらす)：エネルギーセンター/需要家(ビル)/テナントの3者連携による空調・照明のデマンドレスポンス制御



評価ポイント

- ・需給逼迫時の節電 + 自家発電の活用、夜間帯での蓄熱。コージェネを最大限に活用。
- ・グループ内のエネルギー会社との連携により、DRをはじめ波及効果のある取り組みがなされている。
- ・HTTそれぞれの分野に取組み、着実に実績を出している。

冬のHTT取組宣言

- ・エネルギー会社を有する特徴を生かし、引き続きグループ一体となって、節電を意識したHTTを推進

## 取組名

## 働き方に合わせたエアコンの自動OFF制御による電力抑制

## パソコン電源OFFのタイミングと同期し事務所エアコンのスイッチを自動OFF

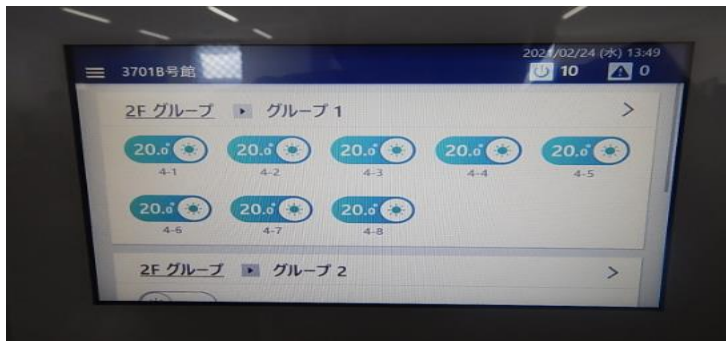
## 【背景】

働き方改革の施策の一環で事務所では『既定時間での個人パソコンの自動電源OFF』を従来より推進している（一部残業が必要な従業員もあり、その際はパソコン電源OFFの延長申請は可能）

## 【狙い】

既定時間までに退社する従業員は、残業で事務所に残っている従業員が少しでも居ると“仕事中心なのにエアコンを止めたら悪い”という心理が働きエアコンスイッチをOFFをすることをためらい、結果運転が継続する傾向となりがちであることからまずはパソコン電源OFFに同期しエアコンを一旦自動OFF、必要な人が必要な時だけ再度ONする方式に変更し、過剰な運転・電力消費を抑制

エアコンの集中リモコン。既定退勤時間でタイマーOFFを設定



電力量推移（5時でのエアコンスイッチOFFで電力低減の例）

